

三月 一般部参考手本

〈実用部〉

蕨のたんぽぽは酢で食した
けさの田舎はひとりの
深雪の越の山里の
吾はどろりに先づはらく
名

〈鑑賞部〉

君がため
春の野にいづ、わか葉つむ
らな衣手に雪はふりつ、
名

〈臨書部〉

共建法 憧れ 仏恩
望不憚煩勞

風信帖 共建法幢 報 佛恩徳 望不憚煩勞

学生部参考手本



〈小五〉

季節の言葉
北へ帰るわたり鳥
生まれたての、ちようちよ
ふくらむ、つぼみ
小五名前

〈中学〉 〈入門〉

慣れた犬は近づいても
眠ってほえず
初春の鶯は人を迎えるように
しるりに鳴く
中学 年名 前

〈小四〉

口を大きくあけて
歌ってごらん
その歌が広がって
たれかと、こんにちは
小四名前

〈小二〉

森のくまさん
はるがきて
目をさます
小一名まえ

〈小六〉

信じあう喜びを大切に
すつと友達でいよう
明日の日をゆめ見て
若者はまた歩き始める
小六名前

〈小三〉

山の三月
そよ風ふいて
谷間の雪がとけ出した
小三名前

〈幼児〉

おひなさま
ようなまえ

